

放課後子どもプラン従事者研修会

子どもの特性、特別な配慮が 必要な子どもへの対応～

岐阜県教育委員会 特別支援教育課

1

1 困っているのは 本人

2

クラスにこんな子どもがいたら？

- ①自分の興味のあることは何時間でも集中して
できるのに、みんなと同じ課題はやろうとしない。
- ②人が気にしていることや、言われて不快に思うこ
とを平気で言ってしまう。
- ③いつも机の周りが乱雑で、片付けない。

3

興味の著しい偏り
見通しのなさ、苦手意識

社会性の弱さ
コミュニケーションの困難さ

空間認知の弱さ
手順の理解の弱さ

4

発達障がいとは理解しにくい、されにくい障がいです。

叱責・励まし・からかい



自信喪失・自己否定



二次障がい(心身症・うつ病など)



5

困難さは発達とともに変化する

幼児・小学校低学年

- ・状態が顕著、困難さの実感少ない

小学校中学年

- ・周りが見える→できない自分に気付く

思春期

- ・自我の形成
- ・状態の潜在化・複雑化
- ・二次障がい

6

2 背景を探る

7

困難さ：活動途中で興味がそれる

注意力・集中力・衝動性

刺激への反応のしやすさ

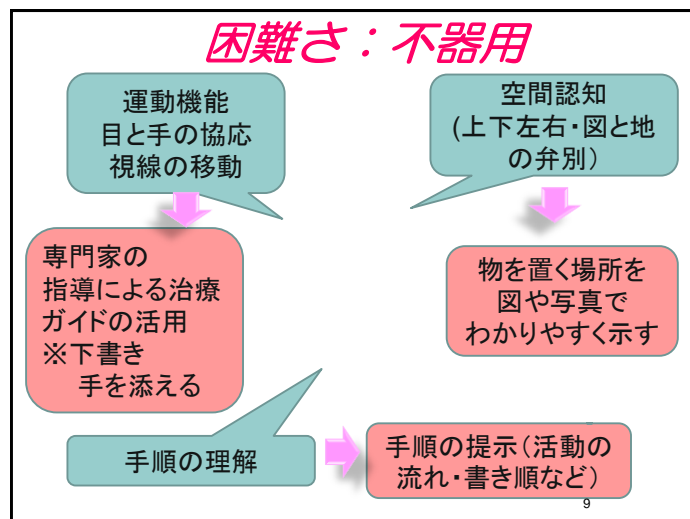
活動時間の工夫
即時評価による
意識の継続

不要な
刺激の排除
刺激が
入りにくい座席

心理的要因

見通しがもてる指示
安心できる人・場所

8



3 特性を理解する

- ・できる・できない
- ・よい・わるい

で決めるのではなく、
その子独特のものの捉え方や考え方を
理解することが大切。

10

LD(学習障がい)

全般的な知的発達の遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算するまたは推論する能力の習得と使用に著しい困難を示すもの。

(1999 文部省の定義)

※平成11年7月の「学習障害児に対する指導について(報告)」より

11

LD(学習障がい児)の様々な状態像

- 「聞こえていても、言われた言葉が理解できない」
- 「自分の思いをうまく表現できない」
- 「鏡文字になる。整った文字が書けない」
- 「単語は正しく書けるが、文章の表記では混乱する」
- 「繰り上がりや繰り下がりの計算でつまづきやすい」
- 「計算はできるが、図形や文章題で混乱する」

12

理解と支援のポイント

・つまずきの背景にある認知過程の把握(つまずきの要因がどのようなタイプか)

例) 聞いて理解することが苦手→視覚的支援
目で見て理解することが苦手→聴覚的支援

苦手としていることであっても、それを得意な(実行可能な)処理過程に置き換えることにより、学習に取り組むことができる。

できる状況づくり

13

ADHD(注意欠陥/多動性障がい)

不注意

- ・興味があること以外では集中困難
- ・注意の対象がすぐ変わる(注意転導)

多動性

- ・年齢や精神レベル以上に動き回る
- ・体のどこかを動かさずにはいられない様子

衝動性

- ・後先を考えず、思ったこと、ひらめいたことをすぐ行動に移してしまう

14

理解と支援のポイント

・つまずきの背景はセルフコントロールの問題

「やってはいけない」とわかっていることも
「やめられない」

環境調整

- ・1回の課題時間を短く設定
- ・即時的かつ頻繁な賞賛
- ・席を立てて活動してもよいという条件の利用

15

理解と支援のポイント

セルフコントロールに関する知識・スキルとそれらの運用の仕方習得

- ・望ましい行動や将来を見据えた計画を立てる
- ・VTR等で自分の行動を振り返る

薬物治療の可能性を検討

16

高機能自閉症

高機能 = 全般的な知的障がいを伴わない

自閉症

- ① 社会性の障がい
- ② コミュニケーションの障がい
- ③ 想像力の障がいおよびそれに基づく行動の障がい

その他、極端に限定された興味・関心
独特な認知・感覚

17

アスペルガー症候群

- ① 生来の社会性の障がい
- ② 言語発達の遅れは少ない（知的には正常レベルが多い）
- ③ 興味の著しい偏り（ファンタジーへの没頭、儀式行為）

自閉症スペクトラム

自閉症スペクトラム障がい

18

理解と支援のポイント

不安の軽減

- ・不安を引き起こす引き金になっているものを軽減
- ・安心できる場の確保
- ・常同行動・パニックへの配慮

→ 予告した上での予定の変更など、様々な状況を受け入れられるようにするための段階的な指導が大切

不安の軽減は、すべての学習を進める上での前提

19

理解と支援のポイント

社会的スキル

- ・「こういう時にはこうする」という典型的な場面での型にはまった知識やスキルの獲得は容易だが、それを様々な場面で応用したり、相手の気持ちをくんで臨機応変に対応することが苦手

社会的なルールの理解や会話に必要なスキルがどの程度獲得されているか把握した上で、指導の場や学習内容を段階的に難易度の高いものにしていく。

20

4 苦手も得意に リフレーミング

21

5 5W1Hで 具体的に

22

6 「ないと困る 支援は 「あると便利な」 支援

23

イメージと見通しがもてる視覚的支援

- ◇活動の流れのわかる掲示物（常時）
※①あいさつ②うた③出席確認
…など、順番に示す
- ◇活動を、カードにして、めくりながら示していく
※必要な子にだけ手持ちで示して使うことも可能
- ◇時計の図などで、活動時間を示す
※時計の針の位置と比べて、各自で確認できる

24

失敗させないための支援

◇使うものの近くや活動中に、図と言葉で注意書き
(掲示や提示物で)

- 例)
- 水道の蛇口に、「『きゅっ』ととめてね」
 - ゲーム中に「負けても おこらないよ」など約束カードを示す
 - 水道前の床に、順番待ちのラインテープ
 - 持ち物を、絵カードなどで示して伝える

25

スキルの提示とできる環境作り

◇話し方・聴き方などの例示(掲示物)

- 例)
- 話す内容を示す
「友達のこと」「楽しかったこと」など
 - 聴き方のステップを示す
「10秒で聞ける」
「2分間集中して聞ける」 など
 - いい言葉を示す
「ありがとう」「だいじょうぶ？」など

26

エスケープルーム・チャレンジスペース

◇間仕切りやカーテンなどで、気持ちの切り替えができるような場所や、集中して取り組めるようなコーナーを設置する。
※誰もが使える場所として
※利用の約束を決めて

27

7「困った子」は
「指導者を成長
させてくれる子」

28

自己理解

- ① 自分の特性を正しく理解できているか。
 - ・得意なこと
 - ・不得意なこと・傾向
- ② 本人がとらえている「自分」と、客観的な状態像とのギャップはないか。
 - ・「こんなはずはない」→ できない自分が受け入れられない。→ 他人や環境のせいにする。

29

言語化

- ① 自分の状況の理解と感情の分化⇒言語化
 - ・「今、こんなことで困っている」
 - ・「自分はこんな気持ちだ」
- ② 言葉で思考・判断する
 - ・問題行動を起こす前に考え・抑制することができるようになる。

30

聞いてくれる人の存在

- ① 言ったら解決できたという経験
 - ・「この人はわかってくれる」という安心感・信頼感
- ② その人との関係を他の人に広げる
 - ・教科担任、学年の先生
 - 「あなたのことを〇〇先生にも話しておいたよ」

31

本人が納得できる形での指示

- ① わかっているけどやってしまう心理を理解
 - ・「〇〇さんもよくわかっているように・・・」

32

問題行動の未然防止

- ① 暴れてしまう「予兆」を理解し、言葉で表現する。
 - ・キレる前にクールダウンする方法を自分で見つける。（別室へ行く、顔を洗ってくる、..等）

**クールダウンの約束を決める。
（15分で戻ってくる 等）**